

○英語科における令和3年度授業改善推進プランの検証

・取り組みにおける成果と課題

年度当初に4技能を伸ばすための指導計画を立て年間を通して実施した。また、少人数指導を取り入れることで、具体的な指示が必要な生徒へ声かけを行い、きめ細かい指導・支援ができるようにし、4技能の向上に向けて取り組んだ。

第1学年において

○成果

- ①すべての学習領域において目標値を上回った。
- ②すべての観点別正答率が目標値を上回った。

●課題

日常会話や会話を聞いて内容を理解する設問のポイントが目標値 75.3%に対し、89.0%と伸び悩んでいるので、今後は会話を聞いてその内容についての理解を深めるなどのリスニング活動を増やしていきたい。

第2学年において

○成果

- ①すべての学習領域において目標値を上回った。
- ②すべての観点別正答率が目標値を上回った。

1年時から継続的に、新文型導入時にやり取りを中心としたペアワークで新文型の理解と定着を図ったコミュニケーション活動をした。1年時より教科書の内容を中心にまとまりのある英文を読み下し、Q&A や概要を読みとる活動を継続的に行い、それを通して内容理解を深めたり、音読活動にもペアワークで取り組んだりするなど、協働活動を中心としたアクティブラーニングを重視した活動を引き続き行っていきたい。

●課題

対話文を読み、基本的な語形や語法の理解を問う問題や、対話の流れに応じて書く英作文の問題に若干ではあるが課題が見られるので、やり取りを重視した Speaking 活動を継続的に行い、それを活用して英作文につなげる活動やあるテーマに沿ってある程度まとまった英文を書いたりなどの Writing 活動を増やしていきたい。

第3学年において

○成果

- ①すべての学習領域において目標値を上回った。
- ②すべての観点別正答率が目標値を上回った。

2年時に、単元ごとの小テストを実施した。また新文型導入時にインタビューやペアワーク形式で「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の技能を高める活動をした。教科書の対話やまとまった英文について Listening Introduction で概要をつかみ、Q & A や True or False 等行って初見の英語を聞いて理解する力をつけた。ワークシートを中心に教科書内容理解を深めた。教科書音読の練習に力を入れた。

●課題

「リスニング（内容理解）」の問題と、「語彙・語法の知識・理解」にやや課題を残している。文法の導入時や教科書内容の理解の際に、リスニングイントロダクションを引き続き重視し、継続していく。また、語彙力向上のための小テストや新文型の定着を兼ねた自己表現の活動を増やしていく。

○英語における大田区学習効果測定の結果分析

達成率（経年比較）△目標値を上回る ≡目標値と同程度である ▼目標値を下回る

| | 令和4年度結果 | 令和3年度結果 | 令和2年度結果 |
|------|----------------------|--|--|
| 第1学年 | 全体 △ 基礎 △ 活用 △ | | |
| 第2学年 | 全体 △ 基礎 △ 活用 △ | 全体 △ 基礎 △ 活用（思考・判断）△ 活用（表現力）△ | |
| 第3学年 | 全体 △ 基礎 △ 活用 △ | 全体 △ 基礎 △ 活用（思考・判断）△ 活用（表現力）△ | 全体 △ 基礎 △ 活用（思考・判断）△ 活用（表現力）△ |

内容別結果の分析

- 1学年においては、カテゴリー別正答率の全9項目中9項目で全国平均正答率を上回っており、目標値をすべて超えている。「英文を読み解く（聞く）」、「日常会話の理解（聞く）」の項目に課題が見られる。教科書の内容を中心にある程度まとまった会話を聞いて内容理解するリスニング活動や既習の語彙や文法事項の知識の定着のために、単語テストや新出および既習の文法事項を使ったWritingやSpeaking活動に取り組んでいく必要がある。
- 2学年においては、カテゴリー別正答率の全11項目中2項目で全国平均正答率を上回っており、目標値をすべて超えている。「語形・語法の知識・理解」「場面に応じて書く英作文」の項目に課題が見られる。教科書の内容を中心にある程度まとまった会話を聞いて内容を理解するリスニング活動、単元ごとの単語テストや、新出語形および文型を活用したSpeakingやWriting活動を継続的に取り組む必要があると考えられる。
- 3学年においては、カテゴリー別正答率の全10項目中8項目で全国平均正答率を上回っており、目標値を超えている。しかし、「リスニング（内容理解）」は目標値をわずかに下回った。また、「語形・語法の知識・理解」の項目にやや課題が見られるので、単語テストなどで英語の基礎となる力を伸ばすための活動、語形・語法の知識理解の能力を伸ばすため、既習の文法事項を振り返る活動を今後はより多く取り入れる必要があると考える。

| | |
|--------------------------------------|--|
| 観 点 別 結 果 の 分 析 | <p>○1 学年においては、観点別正答率では3観点で目標値を上回っている。特に「思考・判断・表現」においては約17ポイント上回っている。「知識・技能」の観点においては、新出および既習語彙を復習することを目的とした小テストや活動を実施したり、新出および既習文法事項を使用しある程度まとまった長さの英文を書いたりといった「書く」活動を重点的に取り入れる。「話す」活動においては、主体的に英語で表現していこうとする力を育むために、既習表現を使った会話の作成やスピーチ及びパフォーマンステストを実施していく。</p> <p>○2 学年においては、観点別正答率では3観点で目標値を上回っている。特に、「思考・判断・表現」においては目標値を約10ポイント上回っている。「知識・技能」の観点においては、新出及び既習語彙を復習することを目的とした小テストや活動を單元ごとに実施したり、新出および既習語形・語法を活用し、ある程度の長さの英文をジャンルのテーマに沿って書いたりといった「書く」活動を引き続き取り入れる。「話す」活動においては、既習表現を使った会話の作成やスピーチ及びパフォーマンステストを実施し、主体的に英語で表現していこうとする姿勢を培っていく。</p> <p>○3 学年においては、観点別正答率では3観点で目標値を上回っており、学力が定着している。特に「思考・判断・表現」の観点においては目標値を10ポイント以上上回り、前年度の授業改善策とその実践に一定の効果があったと考えられる。引き続き、「話すこと」に関してスピーチやパフォーマンステストを継続して実施し、積極的に英語で表現し、やり取りをしようとする能力をのばしていく活動を行っていく。</p> |
|--------------------------------------|--|

○英語科の授業改善のポイントと具体的な授業改善策

| |
|--|
| <p>1 「知識・技能」を高めるために以下の事柄を継続的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「聞く→話す→書く」という指導手順から、音声面での定着を図るために十分な発話量を確保する。 ・ ペアワークやグループワークを行い、相互に学びあい、高めあう、協働活動の時間を確保する。 ・ 会話を通して、そのやりとりした英文を書き、文字化していく指導を継続的に行う。 ・ 学習する事項を、実際の生活の中の場面などに設定し、より身近に感じられる導入や活動を組み立てる。 ・ 基本的な文型や基本表現、文法事項を活用して英文を書く時間を確保する。 ・ 各学年の実状に応じた語彙指導をに行う。状況に応じてスペリングコンテストや単語テストを実施する。 ・ 生徒の理解の状況に応じた文法事項を單元ごとに復習する。 ・ 辞書指導を充実させ、語を理解する手段や方法を定着させる。 <p>2 「思考・判断・表現」を高めるために以下の事柄を継続的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段階に応じた Listening および Speaking 指導やコミュニケーション活動を継続的に行う。 ・ 「話す能力」を伸ばすために、毎時間にスモールトークを行い、英語を話す場面を設定する。 ・ 新出事項の導入を英語中心で行い、ペアワークやグループワークなどの協働活動を中心に Speaking 練習をより多く取り入れて定着を図る。 ・ 教科書の音読練習 (choral reading, pair reading, buzz reading, individual reading) を効果的に取り入れる。 |
|--|

- ・ スピーチ、スキット、暗唱などの発表活動の指導を取り入れる。
- ・ 教科書の内容の読み取りを深めるために、基本的な語彙、文法、慣用表現のより丁寧な指導を継続的に行う。
- ・ 教科書の内容理解のために、Oral Interaction、pre-listening Task や Q&A を取り入れ、文章の大意と詳細を読み取らせる。
- ・ まとまりある英文を読み、概要を理解して自分の考えや意見を英語で表現する活動を行う。
- ・ 聞き取るべきポイントを事前に伝え、概要の掴み方を明確にする。
- ・ 概要を聞き取る力と、詳細を聞き取る力の両面を高める指導を行う。
- ・ 習熟度に応じたりスニング自主教材の制作と継続的な活動に取り組む。
- ・ 英語に多く触れる時間を設定するために ALT との Team Teaching の授業だけでなく、普段の授業でも導入時の Teacher's Talk で日常的な英会話から授業に自然につながる工夫をするなど、可能な限り授業内の英語使用率を上げていく。

3 「主体的に学習に取り組む態度」を育む授業を行う。

- ・ 全学年で少人数授業を取り入れ、個々の生徒のつまずきに気付き、解決できるきめ細かい指導をする。
- ・ 生徒の興味や関心を高めるための教材づくりを行い、主体的な言語活動を目指す授業づくりを行う。
- ・ 放課後などの時間を使い教員同士の情報交換を密に行い、指導内容および方法や授業展開について共通理解する。
- ・ 電子黒板や書画カメラなどの ICT 機器を活用し、視覚・聴覚を通して、英語を学ぶ場面を増やす。
- ・ 生徒が英語の授業は「楽しい」と感じ、それが授業への意欲につながるように、ウォーミングアップとして英語の歌やチャンツを実施する。
- ・ 特に1年時では授業規律を徹底し、学習に対する基本的な姿勢・態度を養う。
- ・ ALT の授業では、ネイティブスピーカーの英語に数多く触れ、言語や文化に対する理解が深まるようにする。

4 その他：小中一貫の取り組みを考える。

- ・ 小学校での既習語彙や語形・語法といった英語活動を踏まえ、指導方法の改善に役立てることで中学校での英語学習へのスムーズな移行を図る。